

日本生薬学会海外派遣助成事業 (B-2)  
海外で開催される国際研究集会への参加 [成果報告書] (抜粋)

1. 派遣者

所属 慶應義塾大学大学院薬学研究科 職名 後期博士課程3年 氏名 大嶋 直浩

2. 研究集会名

(欧文名) International Congress on Natural Products Research

(訳文名) 天然物化学国際会議

3. 派遣期間

2012年 7月27日 ~ 2012年 8月 3日 (8日間)

4. 国際研究集会の概要とその成果 (併せて600字~800字で記載下さい。)

(概要) International Congress on Natural Products Research (ICNPR) は, ASP (the American Society of Pharmacognosy) 主催の天然物学会であり, 生物多様性, 新規化合物の探索, 伝統薬の有効性の解明, 天然物の全合成, 天然物の分析化学及び生合成経路の解明など様々な分野の専門家が集まって討論する場である. 今年度は米国・ニューヨークで開催され, 招待講演を含めた口頭発表数は約120題, ポスター発表数は約1100題であり, 懇談会や植物園の見学など世界各国の人たちとの親睦を深める為の多数の催し物などもあった.

(成果) 講演を聴くにあたり, 最初に感じたことが発表時の自由さであった. 時々冗談を言って場の雰囲気盛り上げたり, なにかトラブルが起こってもそれを笑いに変えたり, しかし研究発表については斬新な方法で大胆且つ論理的に説明し, それに対して発表の途中でも質問の手が挙るといったことに, 最初は戸惑ったが非常に楽しく聴くことが出来た. しかしながら, 英語圏の方の言葉が早すぎて聞き取りづらく, 内容を全て理解することが出来なかった. 内容を理解することができるような英語力を身につけていけばより有意義な日々を送ることが出来たと思うと歯痒く, 英語を学ぶ良い発奮剤となった.

7月30日の17:00から2時間ポスター発表を行った. 題名は, 'QUANTITATIVE ANALYSIS OF ANTI-INFLAMMATORY ACTIVITY OF A KAMPO FORMULA, ORENGEDOKUTO: IMPORTANCE OF COMBINATION OF FLAVONOIDS' であり, 漢方処方の一つである黄連解毒湯の抗炎症作用を担うのは複数の成分の組み合わせであることを明らかにしたものである. 発表時間中に, 成分を組み合わせることで, 炎症性遺伝子がどのように変化するのか, なぜ成分を組み合わせると活性が増強するのかなど様々なコメントを頂き, 有意義な時間を過ごすことが出来た.

5. キーワード (本研究成果のキーワードを最大6つお書き下さい。)

① 黄連解毒湯                      ② 発表の自由度                      ③ 英語力                      ④ 成分の組み合わせ

6. 本会からの助成に対する意見・希望等

特になし